

おおくにたまじんじゃ まつ
大國魂神社の祭り 2

はっさくすもうさい
八朔相撲祭



風祭 国府八幡宮例祭

松尾神社例祭
秋季皇霊祭遥拝式

忠魂碑慰霊祭

しゅうきさい まつり
秋季祭りくり祭



住吉神社例祭

神嘗祭遥拝式・神嘗奉祝祭

軍艦多摩戦歿者慰霊祭

文化祭
とり いち
酉の市



七五三詣
新嘗祭（新穀感謝祭）

水神社例祭 冬至祭
煤払祭

初太鼓打初式祭

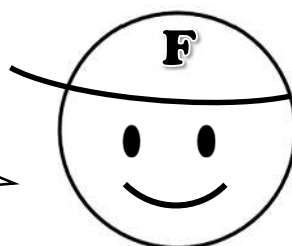
歳旦祭 海幸山幸祭
元始祭 日吉神社例祭

せつぶんさい
節分祭



建国祭（紀元節祭） 坪宮例祭
祈年祭 天皇誕生日（天長祭）
天神社例祭

こんかい なつ ふゆ まつ
今回は夏から冬のお祭りのうち、
まつ しょうかい
4つのお祭りを紹介するよ。



はっさくすもうさい 八朔相撲祭

はっさくすもうさい まいとし おこな こ しゅやく すもうまつ
八朔相撲祭は、毎年8月1日に行われる子どもたちが主役の相撲祭りです。

はっさく はちがつさくじつ りやく さくじつ まいつき ついたち さ
八朔とは「八月朔日」の略で、朔日とは毎月の「一日」のことを指します。8月

きちじつ かくち まつ おこな ひ なつ
1日はむかしから吉日とされており、各地でお祭りが行われます。この日は夏

いそが はたけ しごと いちだんらく いね はつほ かみ そな ほうさく いの た
の忙しい畑仕事も一段落し、稲の初穂を神に供えて豊作を祈ることから「田の
み せつく よ
実の節句」と呼ぶところもあります。

はっさくすもう てんしょう とくがわいえやす え どじょう にゅうじょう
八朔相撲は、天正18(1590)年8月1日に徳川家康が江戸城に入城し

きねん はじ かくち じんじゃ てら よ なか おだ
たことを記念して始められたとされています。各地の神社や寺で、世の中が穏や

おさ のうさくもつ ゆた みの いの ほうのうずもう おこな
かに治まることや農作物が豊かに実ることを祈って奉納相撲*1が行われるよ

ばくふ すもう ひとびと けんこう からだ あんぜん せいかつ
うになりました。幕府は、相撲をとる人々が健康な身体で安全な生活をするこ

ねが みずひきまく じんじゃ てら おさ
を願って水引幕*2を神社やお寺に納めました。

*1 奉納相撲とは？

じんじゃ さいれい けいだい おこな すもう ならじだい へいあん
神社の祭礼などの時に、その境内で行う相撲のこと。もともとは、奈良時代から平安
じだい たなばた きゅうちゅうぎょうじ まいとし がつごろ おこな すもうのせちえ じんじゃ
時代にかけて七夕の宮中行事として毎年7月頃に行われていた相撲節会が、神社
さいじ すもう ふうしゅう のうさくもつ ほうさく きょう
の祭事として相撲をとる風習になっていったといわれています。農作物の豊作・凶
さく うらな ごくほうじょう いの かみがみ かご かんしゃ ぎれい おこな
作を占い、五穀豊穰を祈り、神々の加護に感謝するための儀礼として行われます。

*2 水引幕とは？

どひょう まわ よんほんばしら うえ よこ は
土俵の周りの四本柱の上に横に張る
ほそなが まく げんざい つ やね
細長い幕のことで、現在は吊り屋根に
は
張ってあります。



府中の八朔相撲は平成元（1989）年に四百年の記念大会が行われたほどの

長い歴史があります。江戸時代に始まり、明治以降は旧四力町（本町・番場・

新宿・八幡町）により伝統行事として引き継がれ、大相撲*3の力士や近隣の

草相撲*4の力士が参加してにぎわいま

した。現在では小学生の部を中心に、

幼児の部・中学生の部・一般の部に分

かれて行われ、小学生による町内会

対抗リーグ戦も行われています。

*3大相撲とは？

プロの力士による、日本相撲協会が主催する相撲興行（有料の催し）のことです。江戸時代に寺や神社の建設・修理のために有料で行われた相撲が起源とされています。

*4草相撲とは？

祭礼などの時に、野外で行う素人の相撲のことです。

秋季祭り祭

「秋季祭」は毎年9月27日と28日に行われます。祭りの日には、拝殿で

太々神楽*5が奉納されますが、

これは元文2（1737）年9月

28日に、神楽を奉納する組織

である武蔵総社六所宮太々神楽

（大國魂神社太々講）ができた

*5太々神楽とは？

「神楽」とは、神様にささげる歌や舞をいいます。江戸時代には伊勢神宮や熱田神宮の神人と呼ばれる人たちが、各地を回って疫病や災難をよける神札を配ったり、魔除けの獅子舞などを行っていました。そして「代理参拝」の意味から「代神楽」「太神楽」「太々御神楽」とも呼ばれるようになりました。現在も獅子舞のほかに傘回しなど、様々な曲芸が行われています。

ことから始まりました。しばらく中断された時期もありましたが、その後ふた

たび行われるようになり、現在まで引き継がれています。また、武蔵野台地は

むかし、質の^{しつ よ くり}良い栗がとれたことから、

江戸時代には徳川家に納めるようにな

りました。太々神楽と栗の^{だいだい かぐら くり しゅうかく じ き}収穫時期

が重^{かさ}なったことから、栗を^{くり う みせ}売る店が

参道脇^{さんどうわき た なら}に立ち並ぶようになり、いつの

けんとう
*⁶ 献灯とは？

神社や寺に行燈^{じんじゃ てら あんどん え}絵などの神仏^{しんぶつ そな}に供えるろ
うそくなどの灯^{あか}りや灯籠^{とうろう}（お供えする灯^{あか}り
を風^{かぜ}などから守^{まも}り、消さないようにするた
めに木や金属などの枠^{き きんぞく わく}で囲^{かこ}ったもの）を
奉納^{ほうのう}することをいいます。大國魂神社^{おおくにたまじんじゃ}の
参道^{さんどう}では「奉納献灯会^{ほうのうけんとうかい}」によって行^{おこな}われ
ます。

間^まにか「くり^{まつり}祭^よ」と呼ばれるようになりまし。さらに、大正^{たいしょう}14（1925）

年から参道^{さんどう}の両側^{りょうがわ}に行燈^{あんどん}が奉納^{ほうのう}（献灯^{けんとう}*⁶）されてきました。このことから「献

灯祭^{とうさい}」とも呼ばれています。

とり いち 酉の市

酉^{とり いち}の市は、毎年^{まいとし}11 月^{とり ひ}の酉^{おこな}の日に行^{おおとりじんじゃ まつ}われる大鷲神社^{はつとり いち}の祭りです。初酉^{はつとり いち}を一の

酉^{とり つぎ}、次^にを二^{とり}の酉^{ばん め}、3 番^{さん}目を三^{とり よ}の酉^{とり ひ}と呼びます。「酉^{じゅう に し}の日^{とり}」は十二支^{じゅう に し}の酉^{とり}にあたる

日^ひです。十二支^{じゅう に し}は、むかし^{こよみ}の暦^{ねん}の年^ひ・日^ひ・時刻^{じこく}・方角^{ほうかく}の表^{あらわ}し方^{かた}で、子^ね・丑^{うし}・

寅^{とら}・卯^う・辰^{たつ}・巳^み・午^{うま}・未^{ひつじ}・申^{さる}・酉^{とり}・戌^{いぬ}・亥^いの十二^{じゅう に}の名^な前で数^{なまえ}えます。酉^{とり}の日^ひは、

その10番^{ばん め}目で12 日^{じふに}ごとにめぐってきます。

大鷲神社^{おおとりじんじゃ}はかつて、武運守護^{ぶうんしゅご}の神^{かみ}として武士^{ぶし}の間^{あいだ}で信仰^{しんこう}されていましたが、

次第^{しだい}に庶民^{しよみん}の間^{あいだ}では開運招福^{かいうんしょうふく}の神^{かみ}・商売繁盛^{しょうばいはんじょう}の神^{かみ}として信仰^{しんこう}されるように

なりました。現在^{げんざい}、大國魂神社^{おおくにたまじんじゃ}境内^{けいだい}にある大鷲神社^{おおとりじんじゃ}は拝殿^{はいでん}の西側^{にしがわ}にあります。大

とりじんじゃ ご ほんしゃ おおさか ふ さかい し おおとりじんじゃ ご ぶんれい まつ
鷺神社の御本社は大阪府 堺 市の大鳥神社で、その御分霊を祀っています。府中

とり いち ふ ちゅうしんしゅく まつ おおとりのおおかみ おおくにたまじんじゃけいだい うつ まつ
の酉の市は、府 中 新 宿 に祀られていた大鳥大神を、大國魂神社境内に遷し祀

り、行 われるようになりました。

まつ とり よ しちふくじん おおばん こ ばん えん ぎ もの つ くま で
祭りは「お酉さま」と呼ばれ、七福神や大判小判などの縁起物^{*7} が付いた熊手

う ろ てん さんどう りょうがわ なら くま で たから こ えん ぎ
^{*8} を売る露店が参道の 両 側に並びます。熊手は「宝 をかき込む」と縁起をかつ

いだものです。また、 商 談が成立すると威勢の良い三本締めの声でにぎわい、

ふゆ とうらい つ ふうぶつ し とり いち え ど じ だい しょうにん みずしょう
冬の到来を告げる風物詩となっています。酉の市は、江戸時代から 商 人や水 商

ばい ひと にん き まつ のう ぐ のうさくもつ う だ ほうさく き がん
売の人たちに人気がある祭りでしたが、農具や農作物も売り出され、豊作祈願の

おも こ のうみん さんばいしゃ にん き
思いを込めて農民の参拝者にも人気がありました。

えん ぎ もの
^{*7} 縁起物とは？

じんじゃ てら れき し か えん ぎ まい ひと しんぶつ か ご え
神社や寺の歴史を書いたものを「縁起」といい、お参りする人たちが神仏の加護を得るた
めに神社や寺、またはその前の店で買い求める物を「縁起物」といいます。吉事の到来(良
きこと お いわ いの しなもの しょうがつ かどまつ まね ねこ くま
い事が起こること)を祝い祈るための品物のことで、正月の門松やだるま、招き猫や熊
で えん ぎ もの
手などが縁起物とされています。

くま で
^{*8} なぜ熊手なの？

あさくさ おおとりじんじゃ しゃでん やまとたけるのみこと いくさ か れいまい おおとりじんじゃ おこな
浅草の 鷺 神社の社伝によると、日本武 尊 が戦 に勝ったお礼参りを 鷺 神社で行った
のが11月の酉の日で、その際に社前の松に武具の熊手を立てかけたことから大酉祭を行
くま で えん ぎ もの じっさい まつ はなまた げんざい
い熊手を「縁起物」とするようになったといわれています。実際の祭りは、花又(現在の
とうきょう と あ だち く はなはた おおとりだいみょうじん ちか す のうみん しゅうかくさい はじ あき
東 京 都足立区花畑)の 鷺 大明 神の近くに住む農民による 収 穫祭が始まりとされ、秋
のうさくもつ のう ぐ くま で くわ はんばい のうぎょういち え ど はい ふく まね
の農作物や農具の熊手や鍬を販売する「農 業 市」が江戸に入ってきて、福を招くとされ
る「おかめ」などの飾りをたくさん付けた飾り熊手を縁起物とするようになったようです。

せつぶんさい 節分祭

せつぶん きせつ わ いみ こよみ りっしゅん りっ か りっしゅう
節分とは季節を分けるという意味で、むかしの暦では、立春・立夏・立秋・

りっとう ぜんじつ せつぶん よ いま りっしゅん ぜんじつ
立冬の前日のことを、それぞれ節分と呼んでいました。今では、立春の前日に

あたる 2 月 3 日頃だけを節分と呼んでいます。これはむかしの暦で立春前後

が 1 年の始まりとされていて、その前日が特別な日とされたからです。節分は、

ちゅうごく つた つい な おに
中国から伝わった「追儼^{*9}」(鬼やらい)とい

ぎょうじ きげん かんが へいあんじだい
う行事が起源だと考えられています。平安時代

きゅうちゅう きぞく おこな
には宮中の貴族だけが行っていましたが、

えどじだい い だいず まめ しょみん
江戸時代には炒った大豆をまく豆まきが庶民にも

ひろ まめ としおとこ としおんな
広まりました。豆まきは、年男^{*10}、年女^{*10}、

やくどし ひと いっか あるじ おこな せつ
厄年の人、または一家の主が行います。この節

ぶん つか まめ ふくまめ よ まめ
分に使う豆を「福豆」と呼んでいます。豆まきの

あと としと まめ じぶん とし かず
後は、「年取り豆」として自分の年の数、または

た かず まめ た まめ
それにひとつ足した数の豆を食べます。この豆を

た いちねんかんけんこう
食べると、一年間健康でいられるといわれています。

す。

ついな
*9 追儼とは？

へいあんじだい ころ ちゅうごく つた
平安時代の頃に中国から伝
わった「悪鬼を追い払う」行
じ こよみ おおみそか
事で、むかしの暦の大晦日
に宮中で行われていまし
た。時代が進んでいくにつれ
あつき お はら やくめ やく
て、悪鬼を追い払う役目の役
にん お おに やく
人が追われる鬼の役へと
へんか
変化していったといわれて
います。

としおとこ としおんな
*10 年男、年女とは？

とし え と あ だん
その年の干支に当たる男
じょ やくどし ひと いっしょう
女、または厄年(人の一生
のうち、「厄」つまり災難に
おそ おお ちゅうい
あう恐れが多いから注意
しなければいけないとされ
ねんれい だんじょ
る年齢)の男女のことです。
かぞ だし う とし いっさい
数え年(生まれた年を一歳
とし、そのあと新年のた
びにいっさいくわ かぞ ねん
びに一歳を加えて数える年
れい だんじょ やくどし
齢)で、男女それぞれに厄年
があるとされています。
おとこ さい さい さい
男は25歳、42歳、61歳
おんな さい さい
で、女は19歳、33歳、37
さい
歳です。

おおくにたまじんじゃ せつぶんさい けいだい ぶ たい つく うえ まめ ゆうめい ひと
大國魂神社の節分祭は、境内に舞台を作りその上から豆をまきます。有名な人

まね せいだい まめ おこな ぶ たい うえ まめ しょうたい
が招かれて、盛大に豆まきが行われます。この舞台の上からの豆まきは、招待

ひと もうし こ せい いっぱん ひと さん か ち いき
された人だけでなく、申込み制で一般の人も参加することができます。地域で

かつやく せんしゅ こ にん き まめ く
活躍するスポーツ選手、子どもに人気のあるキャラクターなども豆まきに来る

こ おとな ひと ふく けいだい あつ
ため、子どもから大人までたくさんの人が、福をもらおうと境内に集まります。

まめ お よる ほんでん つい な さい なおらい おこな せつぶんさい
豆まきが終わると、夜には本殿で「追儺祭」と「直会^{*11}」が行われ、節分祭

しゅうりょう
は終了となります。

なおらい
*11 直会とは？

まつ お しんしよく うじ こ
祭りの終わりに、神職や氏子などの
さんれつしゃ そな もの こめ み き
参列者がお供え物の米や神酒などを
いただくことにより、神さまとの結び
つきを強くしてその加護を願う行事
のことです。

もっと知りたくなったら読む本のリスト

しよめい ほん なまえ 書名（本の名前）	ちよしゃ ほん が ひと 著者（本を書いた人）	しゅっぱんねん 出版年	ほん せ 本の背ラベル
あるむぜお じだい ごう し だい ごう 自第1号至第25号	ふ ちゅう し きょう ど もりはくぶつかん へん 府中市郷土の森博物館 / 編	1987	F069/10/7
おおくにたまじんじゃ さい じ き 大國魂神社の歳時記	おおくにたまじんじゃ かんしゅう 大國魂神社 / 監修 さくら い のぶ お ぶん 桜井 信夫 / 文	2002	F17/サ
ふ ちゅう し だん だい ごう 府中史談 第29号	ふ ちゅう し し だんかい へん 府中市史談会 / 編	2003	F213/10/7
グラフ府中 だい 10 号	ふ ちゅう し き かくちようせいぶ ころほう か 府中市企画調整部広報課 / へん 編	1975	F318.5/10/7*
しゅん か しゅうとう ぎょう じ た 春夏秋冬の行事と食べもの	たかい ひろこ ちょ たかい ひろこ / 著	2015	38/タ
ねんちゅうぎょう じ じょうほうかん 年中行事 ポブラディア情報館	しんたに たかのり かんしゅう 新谷 尚紀 / 監修	2009	38/ネ
はじめて知るみんなの ぎょう じ 行事とくらし がっけん しん (学研の新まるごとシリーズ)	しんたに たかのり かんしゅう 新谷 尚紀 / 監修	2008	38/ハ
とり いち くま で 西の市と熊手	まつざわ みつ お ちょ 松沢 光雄 / 著	1979	F385/76/7

おおくにたまじんじゃ

大國魂神社ホームページ <https://www.ookunitamajinja.or.jp/>

さがしている本がみつからないときは、
と しょかん ひと
図書館の人にきいてみよう。



「大國魂神社の祭り 2」 こども府中はかせ No.8

2018 年 8 月発行

2025 年 3 月改訂

府中市立図書館 編集・発行

<https://library.city.fuchu.tokyo.jp/>